

顕現後第3主日 ルカ4章14―21節

〔直訳〕

14 そして 帰った イエスは 霊の力の中で ガリラヤの中へ。
そして 評判が 出て行つた 周辺全体にたまねく。
15 そして 彼は 教えていた 彼らの会堂の中で
栄光を受けながら すべての人々によって。

16 そして 彼は来た ナザレの中へ、
ところが 彼が成長した、
そして 彼は入った 彼が通常していたように 安息日の中で 会堂の中へ
そして 彼は立ち上がった。朗読するために。

17 そして 渡された 彼に 預言者イザヤの巻物が
そして 広げて 巻物を 彼は見いだした 箇所を
ところの 書かれていた

18 主の霊が 私の上に
そのことのゆえに 彼が油を注いだ 私に
福音を告げ知らせるために 貧しい人々に、
彼が遣わしている 私を、

告げるために 捕らわれている人々に 解放を
そして 目の不自由な人々に 再び見えるようになることを、
送り出す 打ち砕かれている人々を 解放の中で

19 告げるために 主の喜ばしい年を。
20 そして 巻き上げて 巻物を 返して 奉仕者に 彼は座つた。
そして すべての人の 目が 会堂の中で 見つめていた 彼を。
21 だが彼は始めた 言うことを 彼らに向けて 次のことを
今日 実現されている この聖句は あなたがたの耳の中で。

〔新共同訳〕

14 イエスは「霊」の力に満ちてガリラヤに帰られた。その評判が周りの地方一帯に広まった。
15 イエスは諸会堂で教え、皆から尊敬を受けられた。
16 イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。17 預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある箇所が目にとまった。

18 「主の霊がわたしの上におられる。
貧しい人に福音を告げ知らせるために、

主がわたしに油を注がれたからである。

主がわたしを遣わされたのは、

捕らわれている人に解放を、

目の見えない人に視力の回復を告げ、

圧迫されている人を自由にし、

19 主の恵みの年を告げるためである。」

20 イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。21 そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。

①構成

① a 14—15節

⑦イエスは「霊の力の中で帰った」。荒れ野で悪魔からの試みを退けたイエスは、ガリラヤへ帰る。マタイは洗礼者ヨハネが捕らえられたことを聞いたイエスがガリラヤへ「退いた」と述べ、マルコはガリラヤへ「行つた」と書く。共観福音書はガリラヤへ行くイエスを描くのに、それぞれ別の動詞を用いている。

④イエスのガリラヤへの帰還に「霊の力の中で」という句を用いるのはルカだけである。「霊」という言葉は18節にも用いられている。「霊の力に包まれて」いるイエスは、「私の上に主の霊が（おられる）」というイザヤの預言の成就である。

① b 16—21節

⑦イエスはいつものように安息日に会堂に入る。朗読のためにイエスは立ち上がる。朗読の場面を描くこの段落では、イエスの行動に焦点が当てられており、16節の「立ち上がった」は、20節の「座った」と対応している。「立ち上がり、座る」イエスに人々の視線が注がれる。

④18節と19節には「告げるために」と「解放」が用いられており、これらの言葉によって対応している。主が油を注いだことよって、主の霊が留まっている「私」は、主に遣わされ、「貧しい人々に福音を告げ知らせる」。「福音」とは、捕らわれている人々、砕かれている人々に与えられる「解放」である。

②霊の力の中で（14—15節）

①a 共観福音書（マルコ・マタイ・ルカ）はイエスの公生涯を、「洗礼」「荒れ野の誘惑」「ガリラヤでの宣教開始」という同じ順序で描く。しかし、それぞれを比較してみると、相違点もあり、これらの出来事はそれぞれのイエスに対する独自の視点から描かれていることが分かる。

①b ルカは、イエスが洗礼を受けたとき、「天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降った」と書く（ルカ三21—22）。この天から受けた聖霊に満ちて、イエスは荒れ野で悪魔からの誘惑を退けてゆき、悪魔が離れ去った後、宣教を始める。ガリラヤへ帰ったイエスは「霊の力の中に」あった（14節）と述べている。

①c しかし、マルコ福音書とマタイ福音書を見ると、洗礼の際にイエスに降った霊が、イエスを荒れ

野へと導いたことは述べているが、ガリラヤへ帰るイエスについては、「霊の力の中に」あったとは書いていない。ルカの「霊の力の中で」という表現には、ルカにとつてのイエス理解が示されていることになる。

⑭ 15節は、ルカによる編集句である。ルカは、イエスが「霊の力の中で」ガリラヤに帰った、と書くことによつて、イエスの神の国の宣教は初めから終わりまで、「霊の力」の導きのものにあつたことを強調している。「霊の力」は神の国の宣教を支える力である。この霊はイエスに宣教の力を与え続け、イエスに苦しむメシアとしての使命を果たさせる。イエスは十字架の上で「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」（二三46）と言つて息を引き取るが、これは、イエスが神から与えられた使命が主の霊によつて成し遂げられたと神に報告する言葉でもある。

⑮ この編集句に用いられている「霊（ブネウマ）」という語は、ルカ福音書では、イエスの宣教活動の内容を暗示する役割も持っている。イエスはナザレの会堂で語つた最初の説教で、自分が「主の霊」を受けていることを明らかにする。ナザレの人々から拒絶された後、霊に満たされたイエスはカファルナウムで病に苦しむ人々から悪霊を追い出す（四16―43）。神の国の福音は、まず神に逆らう悪霊を霊の力がイエスを通して支配することによつて、人々に知らされる。

③ 解放を告げる（16―19節）

⑯ イエスが故郷ナザレの会堂で朗読した言葉は「主の霊が私の上に（おられる）。貧しい人々に福音を告げ知らせるために：」で始まり、「主の喜ばしい年を告げるために」で閉じられている（18―19節）。しかも、21節でイエスは「今日、この聖句はあなたがたの耳の中で実現されている」と宣言しているから、貧しい人々に福音を告げ知らせるために主の霊を受けた「私」とは、イエスご自身を指しているはずである。

⑰ 18―19節の聖書引用の大部分はイザヤ61章1―2節からの引用であるが、18節の「打ち砕かれている人々を解放の中で送り出す」だけはイザヤ58章6節の言葉である。ここに用いられているスラウオーという動詞は「打ち砕く・粉碎する」を意味する。転義して「打ちひしがれている・意気阻喪している・落胆している」、あるいは「虐待されている・圧迫されている」の意味となる。ヘブライ語原文では後者の意味。

④ 解放（アフエシス）

⑱ この語はその直前の「捕らわれている人々に解放を」にも用いられている。主の霊を受けたイエスは貧しい人に「福音を告げ知らせる」使命を帯びているが、その福音とは、捕らわれている人に「アフエシス」を、また圧迫されている人に「アフエシス」をもたらすことである。この「アフエシス」を強調するために、イザヤ61章1―2節の中にイザヤ58章6節を挿入したのだと思われる。

⑲ 「解放」とか「自由」と訳されるアフエシスは、この箇所のほかでは「罪の赦し」の意味で使われている。イエスの福音は人間社会が持つ圧迫や束縛からの「解放」と「自由」だけではない。ナザレの人々が端的に示しているように、私たちは人間的な思いから自分を解放しきれない罪の中にいるが、その罪からの解放としての「赦し」をも表している。イエスのアフエシスは社会的次元だけでなく、人間的な次元にまで及んでいる。

⑤ 喜ばしい（デクトス）

⑦デクトスは「受け入れられる・喜ばれる・気に入る・歓迎される」を意味する。ルカ4章24節では「預言者は、自分の故郷では歓迎されないものだ」と用いられている。「主の喜ばしい年」は、ヘブライ語原文の意味に従えば、「主の恵みの年」。2コリント6章2節の「恵みの時」はイザヤ49章8節からの引用。

①「主の恵みの年」は、もとは「ヨベルの年」を表す。レビ25章10節にあるように、「ヨベルの年」とは、「五十年目の年を聖別し、全住民に解放の宣言をする」年である。ルカでは、すべての民の解放という神の救いがイエスによって実現したことを表すために「主の恵みの年」という表現が用いられている。

④今日、あなたがたの耳の中で（20—21節）

①「今日」（セーメロン）は新約聖書では41回使われるが、ルカ文書で20回も使われるのに対して、ヨハネ文書では一度も使われていない（ルカ11、使9、マタ・ヘブ各8、2コリ2、マコ・ロマ・ヤコ各1）。この語の用法は、ごく普通の日常的な意味で「今日」を指す場合と、神学的な意味合いを強く響かせる場合とに分けられる。ルカ福音書ではイエスによって救いが今ここに現れていることを表す言葉である。「今日、驚くべきことを見た」（五26）、「今日、救いがこの家を訪れた」（二九9）、「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」（二三43）。

②イエスはザアカイに「急いで降りなさい。なぜなら今日、あなたの家に私が留まることになってい」と言い、ザアカイは「急いで降りて、喜び、イエスを迎え入れた」（一九5—6）。ここでの「今日」は時間の経過の中の今日ではなく、待ちに待った特別な日を表す。しかもその日を「今日という今日」に変えるのは、救いの出来事を起こす神である。ルカは「差し迫った終末の日」から、教会の「今日」に強調点を移す。ルカは教会の時代における「今日・毎日・日々」を救いの実現される場として捉えている。

③「あなたがたの耳の中で」は、「あなたがたの耳の前で・あなたがたの聞いているところで」を意味する。あるいは直前の「この聖句」に結びつけて、「あなたがたの耳にお響いているところの・あなたがたが今聞いたところの」という意味も可能である。預言者を通して語られた神の救いは、イエスの言葉によって実現した。

⑤あらゆる捕らわれからの解放を告げる

①ルカ福音書は、洗礼者ヨハネの誕生とイエスの誕生とともに、神からのお告げの実現として描く（1章）。イエスの誕生は聖霊によって、神の力によって起こり、イエスは洗礼によって聖霊を受け、神の子との宣言を受ける（三21—22）。イエスは聖霊に満ちてヨルダン川から帰り、荒野で悪魔の誘惑を退ける（四1—13）。「霊の力の中で」イエスはガリラヤから帰り、宣教を開始する（四14—15）。聖霊はイエスの生涯の初めからイエスに伴い、神の国の宣教を進める力をイエスに与え続ける。

②聖霊の力を受けたイエスが果たすべき使命は、貧しい人々に福音を告げ知らせ、あらゆる捕らわれからの解放、主が与える救いを告げることである。救いは神から告げられるものであり、人はそれを喜ばしいものとして受け取る。この主からの恵みを告げるイエスの言葉に聞くととき、救いの時を生きることができる。